

わんとうーわん

121わくわく新聞！

発行：ワン・トゥー・ワン 〒462-0844 名古屋市北区清水 3-4-18
コンサルティング TEL 052-916-7108 Mail 121con@mbr.nifty.com

平成30年9月号

ひとりごと

ジャカルタ・アジア大会2018は、日本選手の活躍もあってか、予想以上に盛り上がりました。五輪ほどではないにしろ、大会運営は上手でした。インドネシアは、新興国という立場からは随分とレベルアップしているようです。経済力も上がってきているのでしよう。

それにしても、1万を超える選手による大会は、メダルの数が全部で1500個を超え、日本は200を超えるメダル(第二位)を獲得しました。そして、地元インドネシアのメダル獲得数は98個で第四位。国民も嬉しかったことでしょう。

面白かったのは、各国の選手のユニフォームのブランドです。アシックスやミズノブランドが目立つのは分かりますが、アディダスやプーマといった世界ブランドが全く目立ちません。ここからはメーカーの地域戦略がうかがえます。

その一方で中国のブランドが目につきました。うかうかしていると、日本のブランドも中国にアジアの市場を奪われかねません。



今月の格言

疑をもって疑を決すれば、
決必ず当たらず

性悪説で有名な荀子の言葉です。

「あやふやな根拠に基づき、あやふやな心によって判断を下せば、必ず見当はずれな結果になる」という意味です。要するに、正確で信頼できる情報がなければ、正しい判断はできないということです。そしてまた、正確な情報があっても、それを正しく判断できなければ成果にはつながらないということです。

現代は情報にあふれています。ですから、どの情報を信頼したらよいか迷うことがあります。経営でも同じことです。その時大切なのはトップの判断力です。トップには物事の本質を見極める力が必要なのではないのでしょうか。そのためには、日頃物を見る目を養っておくことが求められます。また、確固たる信念を持つことが、正しい「決」につながるのではないのでしょうか。

ウメの事件簿：S社長の声が！

不思議なことであるものですね。

私は社会人になってから、10年ほどS社長の薫陶を受けました。恐ろしいほど迫力のある経営者でした。事業構想は大きく、戦略家のS社長は次々と新しいことに挑戦していきます。業界では地方の新興企業でしたが、またたく間に地域一番の規模となり、業界でも注目される会社に育て上げました。そんなS社長は私のヒーローでした。

ところが、S社長はある日突然事故で亡くなられてしまいます。69歳でした。その後、私は地元を離れて東京に住むことになりました。それから20年後、地元に戻った私はS社長の墓参りに行くことを思い立ちます。ところがそこは数十万ものお墓が立っている広い霊園で、目標のお墓の場所がよく分かりません。1時間ほど探しましたが分からず、あきらめて帰ろうと思い歩き始めた時です。誰かが私を呼んだ気がしました。何だろうと思ってそちらの方へ歩いて行きますと、何とS社長のお墓があるではないですか。ああ、ようやく出会えました。そして、S社長にお礼とご報告が出来たのです。

私を呼び止めた声の主はS社長だったのでしょか。

スポーツビジネスジャパン 2018(大阪)視察

「スポーツビジネスジャパン 2018」展示会を視察してきました。開場前から受付には来場者があふれます。大阪でも今後のスポーツビジネスへの関心が深いことが分かります。

ところが、そんな高い関心にもかかわらず出展社数はたったの 48 社。しかもスポーツスタジアムやアリーナの関連企業が大半です。これではスポーツビジネスの将来像は見えません。

また、会場内で開催された 25 のセミナーの内、6 割は有料です。無料セミナーでは 300 人の定員が入りきれず立ち見も出るセミナーがある一方、有料セミナーは集客がさっぱり。私もいくつかの無料セミナーを聴講しましたが、中にはほとんど中身の無いセミナーもありました。無料とはいえ、ひどいです。完全に主催者の企画ミスといえます。

これでは、関西からスポーツビジネスを盛り上げるのは難しいのではないかと、老婆心ながら心配をする私がそこにいました。



業界データ

米国スポーツ店品目別年間売上順位(2012)

	百万ドル	(億円)
1. スポーツウエア	6,905	(7,600)
2. スポーツシューズ	4,407	(4,407)
3. 自転車部品	3,089	(3,400)
4. チームスポーツ	2,325	(2,550)
5. ゴルフ用品	2,117	(2,330)
6. 釣り具	1,838	(2,020)
7. キャンプ用品	1,647	(1,810)
8. フィットネス	1,473	(1,620)
9. スキー・スノーボード	841	(930)
10. ホッケー	414	(455)

(出典：ジェトロ米国市場・産業動向調査)

マッキンゼーの7S

マッキンゼーの7Sとは、1980年代にコンサルティング会社のマッキンゼーアンドカンパニーが提唱した、経営資源の分析手法です。その分析をもとに経営改革をすることを目標としています。

企業の経営資源は、よく「人・モノ・金・情報」と言われますが、マッキンゼーはこうした従来の見方とは違った観点で経営資源を分析しています。それが、7つのSです。そして、それは「ハードの3S」と「ソフトの4S」に分かれます。

「ハードの3S」は組織の構造に関する資源で、「組織構造(Structure)」「システム(System)」「戦略(Strategy)」が、それに当たります。これらは、比較的変更がしやすいものです。一方、「ソフトの4S」は「共通の価値観(Shared Values)」「経営スタイル(Style)」「人材(Staff)」「能力(Skills)」で、従業員などの人に関する要素になります。これらは、コントロールするのが難しく、変更するのに時間がかかるものばかりです。

この7つのSの中で最も重要なのは「共通の価値観」ですが、全部をバランスよく改善強化していくことが必要だと唱えられています。

お知らせ

平成 30 年 9 月 26 日 (水) 13:30-16:30 に、伊丹商工プラザにてセミナー講師をいたします。テーマは「中小企業がネットを活用して年商を 3 倍にする方法」です。受講料は無料。お申し込みは伊丹市立産業・情報センター (TEL 072-773-5007) まで。

編集後記

大阪の「スポーツビジネスジャパン 2018」は、スポーツ庁もかかわっている割には、その方針が反映されていません。特に AI や VR などの先端スポーツ用品、スポーツツーリズムが表現されていないのは、看板倒れのイベントのような気がします。(編集長：梅本泰則)